

## 第 23 回 ワークショップ検討タスク 議事録

1. 開催日時 : 2023 年 6 月 8 日 (木) 14 : 30~16 : 20
2. 開催場所 : Web 会議
3. 出席者 (順不同, 敬称略)  
出席委員 : 三浦主査(中部電力), 奥平(日立 GE ニュークリア・エンジン)<sup>\*1</sup>, 杉村(日立 GE ニュークリア・エンジン),  
西山(東芝エネルギーシステムズ), 堺(九州電力), 奈良(北海道電力), 西田(東京電力 HD),  
中條(中央大学), 秋吉(原子力安全推進協会), 鈴木<sup>哲</sup>(中電シティーアイ) (計 10 名)  
代理出席者 : なし (計 0 名)  
欠席委員 : 宇奈手(三菱重工業), 仲村(東京電力 HD) (計 2 名)  
常時参加者 : なし (計 0 名)  
説明者 : なし (計 0 名)  
オブザーバ : なし (計 0 名)  
事務局 : 高柳, 葛西, 田邊, 事業推進部 永井, 斉藤, 直井 (日本電気協会) (計 6 名)

\* 1 議事 3 より参加

### 4. 配付資料

- |                  |   |
|------------------|---|
| 資料 No.23(1)-1    | 原子力規格委員会 品質保証分科会 ワークショップ検討タスク<br>委員名簿                                   |
| 資料 No.23(1)-2    | 原子力規格委員会 品質保証分科会 ワークショップ検討タスク<br>委員名 (出欠)                               |
| 資料 No.23(2)      | 第 22 回 ワークショップ検討 タスク 議事録 (案)  |
| 資料 No.23(3)-1    | 第 13 回 JEAC4111 ワークショップ開催概要   |
| 資料 No.23(3)-2    | 第 13 回 JEAC4111 ワークショップの実施結果について (報告)                                   |
| 資料 No.23(3)-3    | 第 13 回 JEAC4111 ワークショップのアンケート結果(詳細)                                     |
| 資料 No.23(3)-参考 1 | 第 13 回 JEAC4111 ワークショップ「JEAC4111-2021 の活用の<br>現状~効果, 課題と解決の方向性~」の開催について |
| 資料 No.23(3)-参考 2 | 第 13 回 JEAC4111 ワークショップ準備スケジュール   |
| 資料 No.23(4)      | JEAC 4111 適用課題検討タスクの活動報告 (案)  |
| 資料 No.23(4)-参考 1 | 原子力規制庁から示された課題 (2022 年 6 月 8 日) に対する考え<br>方 (最終報告) (案)                  |
| 資料 No.23(4)-参考 2 | 2022 年度 JEAC 4111 講習会等 実績   |
| 資料 No.23(4)-参考 3 | JEAC4111 ワークショップ (旧コース IV 講習会) 実績一覧                                     |

## 5. 議 事

事務局より、本タスクにて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後、議事が進められた。

(1) 代理者承認、常時参加者、説明者、オブザーバの承認、定足数確認、配付資料の確認等 他事務局より、出席数は9名の出席であり、タスクグループ規約第9条（決議）で必要な決議条件（委員総数(12名)の3分の2以上の出席）を満たしていることが確認された。その後、配布資料の確認があった。

### (2) 前回議事録確認

事務局より資料 No.23(2)に基づき、前回議事録の紹介があり、正式議事録とすることについてタスクグループ規約第9条（決議）に基づき決議の結果、特にコメントはなく、5分の4以上の賛成で承認された。

### (3) 第13回 JEAC4111 ワークショップの結果（審議）

三浦主査及び事務局より、資料 No.23(3)シリーズに基づき、第13回 JEAC4111 ワークショップの結果について報告があった。

第13回 JEAC4111 ワークショップの結果について、資料 No.23(3)-2 を品質保証分科会に上げるかについて決議の結果、承認された。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 招待者に原子力規制庁が入っていたと思うが、ワークショップを聞いて頂いたかどうかは分かるのか。また概要版は良くまとめて頂いたが、もう少し詳細なものにならないか検討頂きたい。
- 事務局だが、今回はライブ配信のため、現地には講師と事務局しか来ない。配信に Web 参加するためのログインの際に、本名で参加する方もいるし、そうでない方もいるので確定的ではないが、参加者の表示一覧を見た限りでは、当日のパネルディスカッションのライブ配信への参加はしていなかったと思われる。なお、オンデマンドで事前配信した講演については、原子力規制庁招待者3名の内1名はログイン状況から視聴して頂いたと思われるが、事後にオンデマンド配信したパネルディスカッションを視聴して頂いたのかは分からない。概要資料については、ライブ配信を終えた後にまとめて、次の週に出席者の方の意見を伺ったが、アクションがなかったので、そのままとした。修正するのであれば、事務局と委員の方とで進めるものとする。
- ・ 中西先生のお話には考えさせられる所があったこと、またエンドース関係の話など、もう少し詳しく残さなくてはいけないと思うため、事務局に負担を掛けないように修正したい。
- ・ その資料 No.23(3)-1 の概要の扱いについて確認したい。資料 No.23(3)-2 は品質保証分科会

に上げていき、原子力規格委員会三役にも上げていくことになると思うが、資料 No.23(3)-1 は出さないということで良いか。

→ 事務局としては、品質保証分科会及び原子力規格委員会三役に上げていくのは、資料 No.23(3)-2 だと思っており、資料 No.23(3)-1 は品質保証分科会に参考として出しても良いかと思っている。その辺も、本日のタスクで議論して頂きたい。

- ・ 資料 No.23(3)-1 は、原子力規格委員会 3 役まで説明しても良いとは考える。
- ・ 資料 No.23(3)-1 について若干誤記があるので修正して頂きたい。資料 No.23(3)-2 について「来年度、希望するテーマ等について（回答全 9 件）」となっているが、実際に書いてあるのは 8 件で、何か 1 つ重複回答ということなのか。また、アンケート回答者の 59 名には招待者の回答も含まれているのか。

→ 自由回答は全 9 件であったが「継続してこの様なシンポジウムを続けて欲しい」との内容であり、希望するテーマ等の回答ではないと考えたため記載しなかった。全 8 件に修正したい。招待者から頂いたアンケート回答は含まれている。

→ 続けて欲しいというのも 1 つの意見なので、それを加えて全 9 件とした方が良い。

→ 拝承。

- ・ グラフに回答者の合計人数が書いてないので「N=」と、グラフに N 数を書いておいた方が良い。

→ 拝承。

- ・ 資料 No.23(3)-1 を何のために使用するか、目的により随分と違う仕上がりになるので、まずはそれを考えなくてはいけない。シンポジウムに参加していない人に概要を知って欲しいということだと、もう少し整理をした方が良いという気がする。資料 No.23(3)-2 は見て頂ければ伝わる気がするが、今の資料 No.23(3)-1 のまとめ方では全ての人には伝わらないと考える。講演は配付資料があるので、配付資料を見れば分かると思うが、パネルディスカッションについては資料が無いので、何が議論されたのかが、伝わり難い。また、今のまとめ方は、議事録的に書かれているので、何を議論したのかを逐一読んでいかないと分からない。よって、資料 No.23(3)-1 については、構造化してわかりやすくした方が良いと思う。

- ・ 資料 No.23(3)-1 は、品質保証分科会への報告に用いることと、次回以降のワークショップでパネルディスカッションをすることとした際に、過去どの様なことが議論されたのか分かるようにしておくことは、意味があることだと考えている。もう少し分かる形でまとめたいと思う。

- ・ 資料 No.23(3)-1 については、本日のタスク後に少し充実させることと構造化して分かりやすくするが、資料 No.23(3)-2 については、誤記修正と編集上の修正を行った後に品質保証分科会に上げることを、タスクとして承認頂けるか決議を取りたい。

○ 特に異論はなく、資料 No.23(3)-2 を、品質保証分科会に上げるかについて、タスクグループ規約第 9 条（決議）に基づき、Web の挙手機能により決議の結果、5 分の 4 以上の賛成

で承認された。

#### (4) 第 14 回 JEAC4111 ワークショップに向けて

三浦主査及び事務局より、資料 No.23(4)シリーズに基づき、第 14 回 JEAC4111 ワークショップに向けて説明があった。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 日本電気協会の品質保証分科会の講習会ラインナップとしては、実務コース、専門コース、およびワークショップの 3 つがあり、それらの講習会で扱うべき案件については、3 つあるラインナップの中で何処かに振り分けることになる。JEAC 4111 適用課題検討タスクの活動報告の講習会への反映については、先日に品質保証検討会の普及促進チームで、実務コースをベースに対応する考え方等について、打ち合わせをしたところである。ただし、実務コースだけでクローズする訳ではなく、講習会 3 つのラインナップについて考えてみてはどうかと議論しており、3 つのラインナップのバランスを見ていく必要があるかと思う。
  - ・ 普及促進チームで、今後そういう検討を進めて行くのであれば、ワークショップで対応が必要とのインプットがあれば、このタスクでも考えていくし、双方で考えていくことで良いと考える。
  - ・ 原子力規制庁から課題を頂いているので、その課題に対応し普及を進めることは重要であるが、それは 이슈の 1 つでしかなく、我々が課題として抱えているものは他にもある。JANSI でも課題を把握されているのではないかと考えている。
  - ・ 先程の議題で出ていた、「来年度、希望するテーマ等について (回答全 9 件)」に関して、継続して欲しいという意見は何件か有り、ワークショップに関しては今後続けていくという意見を頂いたと思った方が良い。もう 1 つは、良好事例やエクセレントな事例など、具体的な事例を扱って欲しいという意見が結構あることを踏まえて、我々は検討しなくては行けない。基礎的な内容などは実務コースの方で詳しくするとして、具体的な良好事例を聞きたいという話になると、ワークショップがその場になるので、良好事例をワークショップとして発信していくのが良いという気がした。そういう意味では、先程紹介頂いた JEAC4111 適用課題検討タスクで検討している課題を、そのままワークショップで扱うのかについては、よく考えた方が良い。実務をやっている方々にとっては、具体的な事例が大事であり、課題にある「誤解を生じやすい」かどうか等については、ディスカッションでの議論にはならないと思う。参加される方々の興味や関心も考慮してワークショップを考えていかなくてはならない。JEAC4111 適用課題検討タスクで検討した内容をワークショップで議論するという事になると、報告書に携わっている人達に集まって頂き議論することが必要となる。講習会のどこに振り分けた方が良いか、品質保証検討会で議論頂き、その結果を、しっかり共有していくと良い。
- 講習会は 3 つあり、内容が重複しない様に実施している。其々のコースで、其々のテーマに

沿って対応した方が分かりやすいと思う。2022年度に実務コースを実施した際に、ワークショップと同じように今後どのようなテーマを実施するのが良いかアンケートを取っており、どのようなニーズがあるのか共有したい。また、ワークショップのテーマへの回答も参考としたい。

→ JEAC4111 適用課題検討タスクで検討した内容そのものをワークショップで議論するのは難しいと思うが、JEAC4111 で意図していることの実践についてであれば、該当する事例を良好事例として取り上げることができると思う。

- この議題について議論をまとめると、JEAC4111 講習会については、品質保証検討会の普及促進チームで検討している実務コースおよび専門コース、そして本タスクで検討しているワークショップがある中で、其々のテーマ、ニーズを共有しながら、其々の役割分担を進めていくということで、今後の検討を進めたい。

今回のワークショップを通じて、受講者からはこういうワークショップの内容で進めて欲しいという意見があったこと、続けて欲しいというニーズが確認できたこと、また、良好事例及びエクセレンス等を示すのが良いということなどから、ワークショップ継続が求められていると考える。

よって、今後ともワークショップを継続し、JEAC4111 適用課題検討タスクの課題への対応についても、これに関する部分についてワークショップで扱うことが出来る様であれば、考慮していく。また、講習会全体として、実務コース、専門コースと足並みをそろえて、今後検討していくということが、本日のタスクでのコンセンサスと考えたい。

- 事務局だが、前任の事務局からはワークショップは取り止めてはどうかという流れもあったと聞いていたが、今回のワークショップは規格改定のタイミングということで実施したという認識である。実施した結果、受講者のアンケートを踏まえた委員の意見として、ワークショップは継続実施するということで、具体的な検討課題や、宿題も見えてきたのだと理解した。そうすると、次回開催時期等は、他の案件との兼ね合いもあると思うし、テーマが決まってから決めることかもしれないが、コロナの扱いが第5類になったこともあり、次回の開催の方式については、対面で実施するのか、今回のワークショップはなかなか良かったので同じ方向で進めるのかなど、現時点での委員各位の感触をお伺いしたい。本日で決める必要は無いが、対面とする場合の会議室確保のリードタイムは半年以上と長いので、特に視聴した方の感触を聞かせて欲しい。
- 両方良い面もあるし、悪い面もあるので、一律に決めるのはなかなか難しい。今回の概要で示したように、講演の部分は事前に視聴できたので良かったという意見があった一方、講演者の方からは、対面で実施すると受講者の反応がそのまま分かり、どういった所に興味があるかが分かるので、対面の方が良いという意見もあった。委員の皆さんがどのような意見か伺いたい。
- 両方のスタイルが良いというのは同意であるが、業務が忙しいとか、予算が足らずに参加できないのであれば、そうであっても出席してもらった方が良いと考える。今回のアンケート

を見てみると、質問を出しにくいという回答がアンケートの中にあっただということと、ワークショップとしては今回の質問の倍ぐらいいは出て欲しいと思っている。また、パネラー間のディスカッションは、あまり盛り上がらなかった印象もある。今回のワークショップの会場であれば10人から20人程度の観客を入れることは可能であり、もう少し広い日本電気協会の会議室であれば、参加者の半分ぐらいいは対面で実施できるので、そのようにするのがベストであると思う。対面とオンラインの両方になってしまうので、事務局の負担が大きくなるのは考え所ではあるが、ベストはハイブリッドで実施することだと思う。

- コロナが第5類にはなったとは言え、オンラインも良い所があるので、ハイブリッドでやることができれば良いと思う。会場に来て自分自身で発言したい方もいるかもしれないので、そういう方は会場に来て頂き、パネルディスカッションに参加してもらい形も良いかと思う。パネラーのメンバーだけが現地で集まり他の方はオンラインで参加していると、触れ合いがないため、他の参加者も入って議論を行えるようなことが出来れば良いと思った。オンラインだと話に入ってくるのがなかなか難しいのかと思っており、先程の意見の形が良いと思った。
- 事務局としては、現地とオンラインのハイブリッドの場合には、現場作業とオンライン対応の2つがあり、事務局の作業量が倍になる。事務局のマンパワーの観点から配慮を頂けると幸いである。
- 事務局だが、先ほどの3名の発言は、今回会場参加の方の感触であるので、オンラインでの聴講者の感触は分からない。また、過去に対面でワークショップをしていた頃は、質問が今回の倍も出て双方向で活発な議論が交わされたのかどうかは、やや疑問がある。それこそ、仕事として参加している人達は、オンラインであろうが対面であろうが、必要であれば質問をするのが仕事なので、対面であろうとオンラインであろうと、それ程の違いが無いのではないかというのが個人的な感覚である。対面のワークショップを見たことは無いが、対面の方が良ければそちらに寄せるのが良いと思う。事務局の手間等を考慮頂き、ハイブリッドを検討することはありがたい事だし理解できるが、何方も良い面があるが、悪い面もあるので、今までの対面の実情を伺いたい。
- 両方を経験したという立場で言うと、対面でもそれほど多くの意見は出ていなかったと思う。ただ、話す側としては、皆さんの顔を見ながら話す方が話しやすいと思う。聞く方もあまり違いはないと思うが、対面であると廻りの人から見られることもあり、なかなか意見を言いつらい面はあると思う。とはいえWebでそんなに質問が出た訳でもないので、あまり変わりはないのかという感じはする。事務局の準備の手間という話については、出来るかは分からないが、検討会委員や招待者委員の協力を仰いでもよいと思う。出張旅費等があるので、遠くからはなかなか来ることができないところあるが、Webであれば沢山の人が参加できる。対面にすれば対面で聞きたい人もいし、話す方も話しやすい。何方かという私の意見もハイブリッドであり、出来ることならその方が良いと思う。
- 対面で現地開催ということになると、事務局側で手がかかるといっても確かであり、検討会

や委員に協力を仰いでも良いのではないかというのはそのように思うので、ハイブリッドあるいは対面で実施する場合には日本電気協会の事務局にだけお願いするのではなく、協力を考慮していけば良いと思う。

- 過去の対面形式のワークショップも何回か参加しているが、皆さんが言われるようにハイブリッドが良いと思っている。理由は、受講者の業務が輻輳している中で、時間が空いた所でオンデマンド配信を複数回受講出来るという点がある。一方で、対面方式と違い質問を出しづらいという点もある。対面方式であると挙手して質問をするという意識も出てくるので、どちらかと言えばハイブリッドが良いと思うが、先程の話で日本電気協会の事務局の大変さも理解できるので、その辺は何とかできればと思っている。その他、事業者では、人員が削減されているという状況で、再稼働を果たしていないプラントでは、一律に対面方式のワークショップにピンポイントで複数名を送り出すことは、費用面も含めて相当難しいので、オンデマンドでの講演の配信及びパネルディスカッションの配信は大変助かる。
- 質問の出し方については、システム上の課題があるのか、現地での対面の質問の方が良いのか、何方とも言えない所があると思う。アンケートの回答では、基本的にオンデマンドで実施することに賛成との回答は結構あったが、次回から対面をお願いするというような意見はあまりなかったと思う。今回のオンデマンド配信形式についてはおおよそ賛同頂けたのではないと思う。これについては1つのニーズとして前向きに捉えたら良いと思う。一方で、対面の良い点もあるので、現状で次回は対面か、オンライン配信か、ハイブリッドかいうのを決めるつもりはないが、皆さんに意見を伺ったので、今後の情勢等も含めて検討を進めていけば良いと思う。
- 見る側となった時に感じたのは、オンデマンド配信となった場合は、台本を読むということに結果的にはなると思った。話す側からすると無味乾燥な所があるかもしれないが、話すことを台本に従い整理するという事は、言葉の1つ1つを吟味して話をするようになるため、かなり精度の高い発言内容となっていると受け止めた。そのため、何回も繰り返し視聴する価値があり、メリットであると考え。一方で、パネルディスカッションについては、パネル討論会は一般に議論したい人が議論するというのが通常だと思うが、その議論を主張したい人と聞きたい人が、相互に議論し繋げていくのが本来の姿であるのかと思う。ディスカッションのパネラーの方たちの考え方は、少なくとも品質保証検討会の人達との意識の差は殆ど無いと思うが、色々な所から参加している人達にとっては、目から鱗のようなことがあるかもしれないので、質問したいという意識がある人にとっては、その場にいようが、オンラインであろうが質問はするという事となると思う。一方で、文字情報のやり取りでは、本当に質問したいことが伝わりにくいとか、答える側にも文字として残るのでこのぐらいの表現にしておくかという所もある。事前の質問に対して、事前に回答を準備しておくということが、検討会のチームではあるので、肌感覚で伝わるようなやり取りがないと、本当の意図したいことが伝わりにくいというような所があり、やはり事前の講演はともかくとして、パネルディスカッションの方は、集合形式の方が効果はあるかと思う。

- 文字での質問は考えていることの真意が伝わりにくい面があるので、会話でのやりとりを重ねる中で伝わっていくことがあると思う。その辺が機械的な文字のやり取りで、不十分な内容で終わってしまうのではもったいないと思う。
- 事務局としては、対面だからといって必ずしも質問が多く出ることもないと理解した。また、対面のよし悪しの面も理解できた。今回のワークショップでは、QAチャットで質問を受け付けることを計画段階で決め、音声でのやりとりはあくまでもバックアップということで実施した。当日に、音声で質問出来ないかという要望はあったが、音声はバックアップであったので、質問が少なかったり、時間が余ったりするのであれば、音声での質問を受け付ける事も考えていたが、今回は実施せず終えることとなった。対面でなくても、音声であれば、文字の質問よりは双方向性が出ると思う。また、対面の場合、質問者がだれか明らかになるので質問し難い面もある気がしており、今回のWebでの質問は半分ぐらいが匿名であり、匿名の方が質問しやすいというアンケート回答もあった。良いところ取りをしようとすると、悪いところ取りになりかねない事も視野にいれつつ、よく検討をして次に繋げることをしたい。

#### (5) その他

- 来年度の計画を策定する迄に、2，3回議論して分科会に上げられる様に、次回ワークショップ検討タスク開催について別途検討し、各委員に連絡する。

以 上